

容器包装への環境配慮素材の採用

販売している弁当や惣菜の容器包装に、トウモロコシを原料とするポリ乳酸（pLA）やサトウキビ由来のバイオPET樹脂等を採用。植物由来の生分解性樹脂は植物が生長時にCO₂を吸収するため、CO₂排出量を削減することが可能。ポリ乳酸は2007年3月からデザートやサラダ容器に採用し、5年間で約8,000万食分を販売した。また、バイオPET樹脂は2012年5月から冷やし麺容器に採用している。

その他、発泡素材の採用や容器包装の薄肉化、容器形状の変更などにより、2011年度において容器包装の焼却時に発生するCO₂排出量を2006年度比約1万トン、率にして25.8%の削減を実現した。



バイオPET画像



PLAサラダ容器